

# どの子も安心して学べる 音環境対策

～子どもの発達に応じた学びの場をつくる～



高知市立江陽小学校  
校長 山本 幹丈

1

- ・誰もが自然に行動を切り替えることのできる音環境



2

# 要旨

- ・安心して学習するための音環境は重要
- ・子どもたちの中には一定数音に敏感な子がいる
- ・パーティションやロッカーなど物による音環境対策
- ・天井や床の材質による音環境対策
- ・配慮が必要な児童への音環境対策

---

3

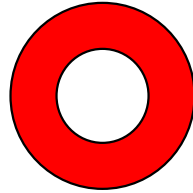
## オープン型教室



---

4

## オープン教室のメリット・デメリット



- 多様な学習形態が可能
- 学年単位での指導がしやすい



- 隣の教室の音が気になる
- 集中しづらい

5

落ち着きをなくした時期



落ち着きを取り戻した現在

※スクールワイドPBS:Positive Behavior Support=学校全体で取り組む、望ましい行動の支援

6

## 1 階と 2 階の違い



**1 階**

- ・天井が低い
- ・音の響きが小さい



**2 階**

- ・天井が高い
- ・音の響きが大きい

7

## パーティションによる音響対策①



東西方向への対策

南北方向への対策

8



## パーティションによる音響対策②



南北方向への対策なし

9

## パーティションによる音響対策②



南北方向への対策1枚

10

## パーティションによる音響対策②



南北方向への対策2枚

- ・ 空き教室
- ・ 着替え用
- ・ クールダウン

11

## パーティションによる音響対策③



東西方向への対策3枚

- ・ 音響対策
- ・ 掲示用
- ・ 適度な広さ

12

## ロッカーによる音響対策

ロッカーを置くことにより  
音の反響を低減

教室と通路を視覚的に  
分ける



13

## 床による音響対策

マットを置くことにより  
音の反響を低減

低コストで設置可能



14



## 天井の素材による音響対策



普通教室・廊下  
吸音性…低



音楽室・校長室  
吸音性…高

## 配慮が必要な児童への音響対策①



集中しやすくするためにイヤーマフを使用する児童



## 配慮が必要な児童への音響対策②



クールダウンできる静かな場所



落ち着けるスペース

17

## 配慮が必要な児童への音響対策③



特別支援学級



個別学習のパーティション

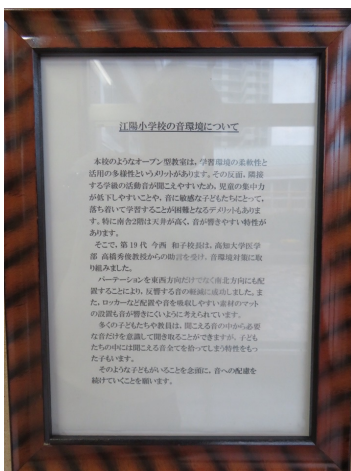
18

## 課題

- ・音環境対策を次の世代に伝えていくこと
- ・音環境について知らない
- ・音環境について知っていても意識が低い
- ・掲示のしやすさなど他の要素を優先
- ・問題が表面化しなくても困っている子どもたちはいる

19

## 次世代に伝えるために



- ・音環境について知ってもら
- ・パーテーションの形の意味を伝える
- ・困っている子がいるかもという意識
- ・相談先や助言者を伝える
- ・校舎にパネルを設置

20

## 江陽小学校の音環境について

本校のようなオープン型教室は、学習環境の柔軟性と活用の多様性というメリットがあります。その反面、隣接する学級の活動音が聞こえやすいため、児童の集中力が低下しやすいことや、音に敏感な子どもたちにとって、落ち着いて学習することが困難となるデメリットもあります。特に南舎2階は天井が高く、音が響きやすい特性があります。

そこで、第19代今西和子校長は、高知大学医学部 高橋秀俊教授からの助言を受け、音環境対策に取り組みました。

パーテーションを東西方向だけでなく南北方向にも配置することにより、反響する音の軽減に成功しました。また、ロッカーの配置や音を吸収しやすい素材で作られたマットの設置も音が響きにくいように考えられています。

多くの子どもたちや教員は、聞こえる音の中から必要な音だけを意識して聞き取ることができますが、子どもたちの中には聞こえる音全てを拾ってしまう特性をもった子もいます。

そのような子どもがいることを念頭に、音への配慮を続けていくことを願います。

## まとめ

- ・安心して学習するための音環境は重要
- ・子どもたちの中には一定数音に敏感な子がいる
- ・パーティションやロッカーなど物による音環境対策
- ・天井や床の材質による音環境対策
- ・配慮が必要な児童への音環境対策